

**新緑号**

# Y-MOT ネットワーク通信 Vol. 7

(山形大学大学院理工学研究科ものづくり技術経営学専攻)



## 『上杉鷹山の備えと挫折、そして再び…』

《特別寄稿》 米沢市上杉博物館学芸主査 角屋 由美子氏

今回の東日本大震災に際し、被災をされた皆様方には謹んでお見舞いを申し上げます。また犠牲になられた方々に深くお悔やみを申し上げます。

平成二十三年二月一一日の東日本大震災によって、人命はもとより失われたものはあまりにも多く、進化した時代の象徴とも思われる原子力の問題をも抱えることになった。そんな現況に、二〇〇年前米沢藩の再生に生涯をかけた上杉鷹山ならどんな政治を行つただろうと想像をふくらませ、歴史を覗いた。

国宝上杉家文書の一通に、文化八年(一八一)三月一六日に米沢城下で発生した大火について、鷹山が世子である式部大輔(後の第一代藩主斉定)に報じた文書がある。藩主治広は江戸にあって、参勤のため式部大輔は火事の前日に米沢を発つていた。六一歳の鷹山は米沢で指図をするとともに、江戸に飛脚を立て、途中追いつくであろう式部大輔に書状をしたためたのである。

死者や怪我人のなかつことを喜びながらも、備糀、備米が一瞬のうちに灰燼に帰した嘆きを綴っている。領民の苦労によって蓄え、飢饉の際領民の命を救う備糀蔵の設置に力を注いできた鷹山の落胆ぶりが「言語に絶えず」という文章からも窺われる。また追而書と呼ばれる追伸があり、そこには三日間は書齋に引きこもったが、再び不屈の精神で立て直しを図る鷹山の姿勢があつた。災害への備えで鷹山が力を注いだものに、飢饉への対応があつた。地域や町内、「備糀蔵」の設置や「かてもの」と呼ばれる山野草の食べ方や保存食の作り方を記した手引書の作成などである。

そして、当時米沢藩で最も恐れられた災害は火事であった。江戸時代の城下町米沢は、たびたび大火に見舞われている。とりわけ特別な存在である御堂では、火を用いての儀式が日々行われており、火事に対する用心がはかられた。

「御堂」(みどう)とは、関ヶ原の戦いの後、米沢三〇万石に移封された上杉景勝が米沢城本丸の東南隅に上杉謙信の遺骸を祀るために建てたものであり、御堂に勤仕する寺院が堀を隔てた二の丸に建たれた。

これらはすべて真言宗の寺院で、江戸中期には二一力寺を数えた。米沢藩の法令『御代々御式目』では、火災の際の対応と日常の準備について規定している。また、不幸にも御堂が火災に遭つた折の、藩主の行動や焼死した藩士についての記述も残されている。

そのおかげで知ることのできる歴史や、国宝上杉家文書も誕生したのだ。政治のあり様や災害も往時とは比べようもないが、どのような知恵を働かすことができるのか、それぞれに問われていることは確かだ。歴史の証人である史料や文献などを火事等の災害から守る備えも、鷹山はじめ先人たちは行つたようだ。

国宝:上杉家文書「上杉治憲(鷹山)書状(部分)」 文化8年3月18日

所蔵:米沢市上杉博物館

↑ 鷹山公の署名

上  
杉  
治  
憲  
鷹  
山

三月十八日

上  
杉  
治  
憲  
鷹  
山

上  
杉  
治  
憲  
鷹  
山

上  
杉  
治  
憲  
鷹  
山

## 『私とMOT』 シリーズ編

MOT四期生

㈱新庄丸果青果

梁瀬 悅子



MOTへ入学と、そして在学中のこと

まだまだ雪の降りしきる一月、新庄の駅中にある『ゆめりあ』で、山大の工学部に食品のことが学べるコースが出来たという話を聞きました。願書提出でも、一週間から十日くらいの短期間での決意だったと思います。

閉塞感漂う、新庄最上の農業や加工食品の新しい可能性を信じて入学を決意しました。

娘が丁度、小学校に入学する時期だったので、週末に家を空けることに不安もありました。娘には、「Mも一年生。母も一年生。母は、米沢で一生懸命に勉強をするから、同じ一年生同士だから、Mも学校で勉強頑張るうね」と言って、娘の理解を得て?、2年間、片道2時間(私の運転)でかけて無事に通うことが出来ました。

2時間かけての通学は、決して苦痛でなく、いろんなことを考えられる良い時間でした。吹雪にあいながらの道中の心労はありましたが、その中からも、たくさんの考え方生まれました。

新庄最上の中居ただけでは、決して良いものも、新しいものも生まれないと思えた貴重二年間でした。

MOT修了後、

MOT在学中、仲間同士の情報交換の場がありました。いろいろな立場、職種、考えがあることをリアルに体験できました。志しが同じ仲間同士で、本音でトークができることが私の財産にもなっています。(授業よりも激しいディスカッションの時も!)

そのお陰もあって、ネットワークも拡大しました。

同期の栗田君の会社の紹介で、パブリカを生産している戸沢村の農業生産者に出会いました。栽培を始めて二年目で、二十代から四十年代前半の生産者が中心となっていました。組織でした。一緒に新庄最上の新しい農業の可能性を歩んでいく仲間、と思い販売を始めました。生産した農産物をすべて買い取るシステムの構築の一歩として、今まで捨てていた農産物を加工して、カット野菜として販売をしました。販売初年度は、山形県内北部のみでした。

2年目は、カット野菜も含め通常規格のパブリカを東北エリアで販売することが出来ました。それから、パブリカのアイスを試作しました。こちらのアイスは、まだ試作段階ですが、試験的に新庄駅内の物産館で随時販売しております。

3年目の今年は、勝負の年です。昨年以上の販路拡大を計画しておりますが、いま未来を生きる子どもたちが『おいしい』と笑顔で言ってくれる風評被害に負けない、安心して食べられる農産物を提供できるように、頑張っていきます。

また、山形県産の食材を使っている東京の有名料亭とのコラボで『いい煮鍋』の販売をしました。同期の荒木君に紹介をしてもらつたきの「も入れ、きの」たっぷりの新庄最上らしい、『いい煮鍋』です。

今年も、農産物を生産した人、食した人が幸せだなど感じる鍋を計画中です。

## 速報！被災地・炊き出し支援

食品コースの野田先生を中心としたメンバー(チームNODA)の皆さん、三回に渡り炊き出し支援を行つて来てます。石巻商店街・南三陸町戸倉・石巻市桃浦及び牧浜の各地域です。

石黒晴美さん(M2)の報告では、東浜小学校の避難所では、震災後2ヶ月が経つても炊き出し支援は今回が2回目とのこと。電気も1週間前に通じたばかりで、お風呂も自衛隊の提供する週2回のシャワーだけ。避難所間の格差が非常に大きいと感じた、とのことでした。

帰るときに、小さな女の子が、もう帰るの?と泣き出したお話には心が痛みます。

南三陸町の時は、車の通行が出来るようになつたばかりで電気の工事を急いでいる状況で、テレビで映される光景と何も変わっておりませんでした。訪れた避難所も10日間も隔離された状態で、水道も未復旧でした。

皆様の御協力、有難う御座いました。先日の新歓コンバの会場で、カンパ支援を頂きましたが、合計3万3千円、Y-MOTネットワークから1万円、総額4万3千円の御支援を頂きました。炊き出しに参加されたメンバーは、岩野宗格さん、小越鉄矢さん(卒業生)、石黒晴美さん、石川雄大さん、佐藤智一さん(M2)、佐藤健太さん(院生)と野田先生です。



萩浜小学校の炊き出しの現場



5月8日(日)のメンバーの皆さん

## 第一回“もつとみらい”コンソーシアム総会 「産学連携によるグローバル人材育成のためのシンポジウム」

平成23年3月7日(月)東京第一ホテル米沢にて、コンソーシアム第二回総会が開催されました。大場学部長・渡辺代表の開会挨拶の後、第一部・第二部の各講演とその後に懇親会が開催されました。またが、百名を越える多数の関係者の御出席を頂きました。

### 第一部

- \*「国際経済の多様化と国際人材育成の重要性」プロジェクト推進担当 綾部 誠氏
- \*「山形大学におけるビジネス日本語教育の成果」語学教育担当 仁科浩美氏・楊帆氏
- \*「在校生による発表」5名の学生から発表

### 第二部

- \*「拡大する中国経済と日本のものづくり企業」  
産学連携教授 柴田 孝氏
- \*「海外展開する日系企業の人材育成と海外戦略」  
プロジェクトリーダー 高橋 幸司氏
- \*「国際人材育成政策と中小企業支援策」  
経済産業省東北経済産業局地域経済部  
産業人材政策課長 兎澤 健氏

### \*「問合挨拶」

ものづくり技術経営学専攻長 松田修氏

「山形大学大学院理工学研究科ものづくり技術経営専攻は、平成20年から経産省・文科省の委託事業「アジア人財資金構想」に取り組んでいます。アジア各国から秀でた留学生を受け入れ、高度な専門教育と技術経営学の教育、日本語、日本ビジネス、日本事情・文化等の教育を行っています。大学院を卒業後は、東北地域の企業に就職し、海外の市場開拓、技術移転や事業展開、マネジメントなどの局面で中枢的な役割を担います。」



高橋幸司国際事業化研究センター長の御講演  
「海外展開する日系企業の人材育成と海外戦略」

### 松田修 専攻長の御挨拶



## 恒例 追い出しコンパ開催！

平成23年2月19日(土)M-1主催による追い出しコンパが、街中サテライト2Fのリーガルさんにて開催されました。

同日の午前中にH22年度修士学位論文公聴会が開かれ、10名の方々の発表が行われました。緊張から開放され、ほっと一息ついた中での追い出しコンパは、松田専攻長をはじめとして先生・OBを含み、約30名で盛大に、楽しい雰囲気で行われました。

公聴会発表者は、浅間勇人さん、岩野宗格さん、小越鉄矢さん、佐藤雅彦さん、高橋寛典さん、本間洋さん、松下彬子さん、宮嶋道雄さん、吉田重男さん、渡辺裕さんです。  
皆様の今後の御活躍をお祈り致します！



← 野田先生による乾杯の挨拶



↑ すっかり打ち解けた  
笑顔の卒業生の皆さん

← 追い出される吉田級長  
地ビールの差し入れ、有難う御座いました！

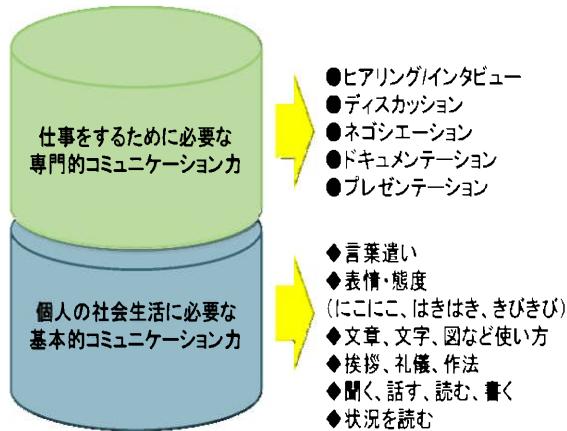


図1. コミュニケーション力の分類

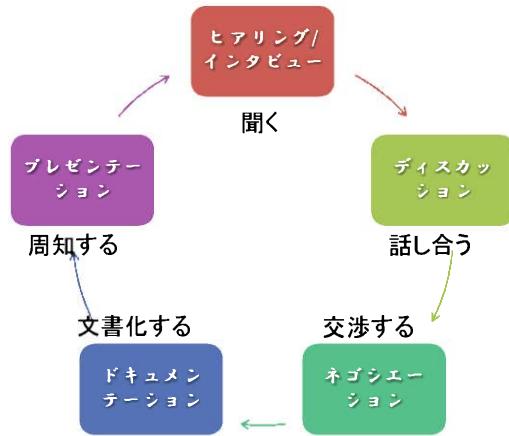


図2. コミュニケーションの展開

## 【MOT広場】自由投稿のページです。

MOT2期生（山形県産業技術振興機構）江口 幸也

技術の高度化、開発期間の短縮など、現場で働く技術者の仕事は、どんどん難しくなってきており、プロジェクトの進め方や関係者との調整が重要となっています。技術者には、専門知識のほかに、プロジェクト・マネジメント力が求められるようになっており、プロジェクト・マネジメントする上で重要な『コミュニケーション力』に関して情報発信します。

コミュニケーション力といつても、一般的に言われている基本的なコミュニケーション力とは、業務を遂行するために必要となる専門的なコミュニケーション力です。（図1参照）

コミュニケーション力を展開していくには五つのステップがあります。（図2参照）このサイクルを回しながらプロジェクトを進める上で関係者との様々な調整が可能となり、プロジェクト活動が円滑に進められると思います。

仕事の進め方や人間関係に苦手意識を持つている技術者が多くなっていると言われておりますが、自分の能力を十分に発揮するためにも『コミュニケーション力』について再考いただければいいかがでしょうか。

### 山形大学技術シーズ活用セミナーの開催案内 共催 山形大学国際事業化研究センター・(NPO法人)Y-MOTネットワーク

- ・日時 平成23年 6月 6日(月) 15. 00 ~16. 50
- ・場所 山形大学工学部100周年記念会館
- ・共同研究事例セミナー
  - 「從来の常識をくつがえす高強度ゲル」 山形大学大学院理工学研究科 機械システム工学 古川 英光准教授
  - 「ライフ&グリーンイノベーションを支える表面処理材料」 同理工学研究科 バイオ化学工学 田中 賢 教授
- ・シーズ活用セミナー
  - 「プロセス革新のための科学技術シーズ集の活用」 国際事業化研究センター副センター長 小野 浩幸 教授
- ・ポスターセッション併設開催 主催 置賜総合支庁委託事業「置賜の次代を担うものづくり企業創出事業」プロジェクト

### 《編集後記》 ようやく、木々の若芽が芽ばえてきました。

平成23年3月11日(金曜日)14時46分の突然の出来事は、一生忘れられない記憶となることでしょう。前向きだった生産活動が、日常生活が、突然停止してしまった東日本大震災の勃発は、日本中のあらゆる生活活動に大きな影響を与えることになってしまいました。

我々は、どのような形でこの体験を後世に残すことが出来るのでしょうか？立ち止まって考えてみる必要があります。記憶だけの記録は、日々疎くなり、いつのまにか消え去るものではないでしょうか？家庭として、地域として、のみならず国家として、地球として……。

今年の米沢上杉まつりも、春から秋の開催に延期されました。米沢や周辺の観光地には、人影もまばらな状況のようです。

5月のゴールデンウイークの人出も、芳しい状況ではなかったようですが、内に閉じこもらず、思い切って外に出ましょう！

<編集委員一同>

MOT事務局より、大学の動きやMOTに関わる情報をお知らせ致します。

■ 東日本大震災に配慮して、卒業式・入学式等、大学関係の公の行事は中止となりました。尚、学内の業務は、4月18日より通常業務に復帰しております。

■ 今年度入学者について(昨年10月含む)  
・前期コース15名(内アジア人財4名)  
・後期コース1名  
合計16名の入学となりました。  
(MOT事務局)

皆様からの御投稿を

待つてまーす！

MOT事務局便り